

令和5年度学校評価シート

1 学校教育目標

(1)スクール・ミッション  
 「自己を知り 自己に培い 社会を知り 社会を愛せ」の理念のもと、確かな学力、主体性・協調性、課題発見・解決能力、論理的思考・判断力、コミュニケーション能力を備え、グローバルな視点で地域の魅力を伝える発信力を発揮し、地域の課題解決に貢献できる人材を育成する。

(2)スクール・ポリシー(三つの方針)  
 ア 育成をめざす資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)  
 (ア)自ら目標を定め、未来を切り拓く力を育成する。  
 (イ)地域の課題解決や地域に貢献できる力を育成する。  
 (ウ)グローバルな視点と地域の魅力を発信する力を育成する。  
 イ 教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)  
 (ア)多様な生徒の基礎基本の定着を図るため、習熟度別学習・少人数授業・同室複数指導を実施する。  
 (イ)課題発見・解決能力や論理的思考・判断力を育成するため、地域と連携した探究活動等を実施する。  
 (ウ)発信力やプレゼンテーション力を育成するため、ICT活用授業の研究推進の取組を実施する。  
 (エ)主体性・協調性・コミュニケーション能力を育成するため、海外を含む外部機関等と連携して実践的・体験的な学びを実施する。  
 ウ 入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)  
 (ア)何事にも誠実に向き合い、主体的に探究する意欲を持つ生徒を募集する。  
 (イ)互いに認め合い、高め合う意欲を持つ生徒を募集する。  
 (ウ)学習だけでなく、特別活動や部活動など、自らの目標に向かって最後までやり抜く生徒を募集する。

2 重点目標

ア 第3期「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」の基本理念「兵庫が育むこころ豊かで自立する人づくり」の実践に向け、生徒の学びを支える仕組みの確立を図りながら未来への道を切り拓く力を育む。

イ 文部科学省の令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型)」の指定を受け、持続可能なふるさとづくりのための人づくりを推進する。平成30年度より導入した「観光・グローバル類型」(全県から生徒募集)と「地域探究類型」では、生野銀山や竹田城など観光資源豊かな朝来市にある本校から、グローバルな視点とともに地域の魅力を伝えられる発信力を持った人材や地域の課題解決に向けた提案ができる人材を育成する。

ウ 「自ら考え、未来を切り拓いていくことができる生徒」「地域を愛し、地域の担い手となる生徒」「グローバルな視点を持ち、自らの言葉で語る事が出来る生徒」を育成する。

4 学校関係者評価

・ボランティア活動を通じ、地域の方々と交流することにより、社会の一員としての自覚を身につけさせていることに評価する。こうしたボランティア活動へ積極的に参加する生徒が増えることを望む。

・登下校時の生徒たちと町の風景がよく、その時間は町が生き生きしているように感じる。

・挨拶すると返礼してくれるが、自ら積極的にすることも必要。挨拶の持つコミュニケーション力、地域力を指導すべきだ。

・ローソン前の国道横断が気になる。

・「ゆめいく(探究活動)」は地域とのつながりの上で有意義である。小中学校への生徒の出前講座では「伝える」ことも学べる。

・探究活動により生徒自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断し、問題解決する資質や能力が育成されている。

・学校外での発表など、社会に出る前から人前で発表できる経験の場が作ってあるのは素晴らしい。

・早くから夢や志を確立させるために、なりたい自分の姿から逆算して、今をどう生きるか、何を備えるべきかのバックキャストイングが必要である。

・人権教育については、これからの社会作りの中心的役割に立つ若い世代が人に対して思いやりが持てる取組をされている。

・人権映画鑑賞等の後の振り返り、受け取り方は一人ひとり違う。

・人権意識の確立、取組は世界標準であり、しっかりした教育が必要である。ネット上の人権侵害・差別扇動に対するリテラシー教育が重要である。

・部活動は全入制が良いか、運動部・文化部を問わず打ち込める時間や仲間は大切だと思う。

・部活動は部員が少ない中、目標を見失うことなく活動ができていますと評価する。

・引き続き、礼儀やマナー等を身につけつつ指導をお願いします。

・夏休み期間等の私服登校など、生徒を信じる教員の考えが子供たちにも伝わっている。

・主体的に学ぶ態度や学習習慣の育成については、目標達成シートのようなものを作成してはどうか。

・進路希望実現に向けて、一人一人の意見や希望が聞けており、個別指導が行き届いている。

・まだ経験不足の生徒なので、進路実現の取組が適切になるよう様々な角度からの指導を強化されたい。

・私たちの世代と違い、生徒と先生のつながりが太い。

・生野地域の盛り上げに一翼を担っている。

・地域の行事にも協力してもらっている。秋祭りでは人手不足で屋台が出せないところもあるので、協力してみてもいい。

3 学校自己評価結果(5…よくできた 4…できた 3…どちらともいえない 2…あまりできなかった 1…できなかった)

分野	評価内容	評価	学校の取り組み状況・改善の方策
①基本的な生活習慣の確立	・挨拶の励行、交通マナーの向上など社会性の育成や、基本的な生活習慣の確立	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら進んで挨拶をするなど積極性が出ると良い。</li> <li>・PTAとともに行事の時には挨拶運動に取り組んでいる。</li> <li>・あいさつはしている生徒が多いが、声が小さかったり、元気がないように感じる時もある。時間にルーズな面も見られるため、改善点は多くあると考える。</li> <li>・少人数の学校であるため、アットホームな雰囲気では生活している。よい部分もある反面、礼儀作法など社会性を身につけさせられたかどうか疑問が残る。「親しき中にも礼儀あり」を心得た生徒になってほしい。</li> <li>・校内での挨拶は積極的に行われており、互いに気持ちよく過ごせる環境や関係性が築かれている。</li> <li>・普段の授業開始時や定期考査時に時間を守ることや早めに行動するよう声かけを行った。</li> <li>・朝、昇降口に立ち挨拶をしたり、授業の開始、終了の際に挨拶をするよう声かけを行った。</li> <li>・普段の授業や学校行事のとき、早めの行動を心がけるよう指導している。また、遅刻した生徒については話を聞いて指導する場を設けている。</li> <li>・交通安全運動や自転車のヘルメット着用に関するポスター配布など、交通マナーについてSHRで取り扱い、生徒たちに伝えることができた。</li> <li>・生徒会主体の呼びかけ、活動をさらに充実したものに。</li> <li>・交通マナーについては、注意喚起を続けて良い状態を保つ必要があるように思われる。</li> <li>・基本的な生活習慣については、就寝から登校までの時間を安定した精神で過ごせていない生徒もおり、遅刻や生活習慣の乱れを生徒に注意するだけでは解決せず、生徒が抱える背景について理解をし、寄り添う必要がある。</li> </ul>
②自ら目標を持って学ぶ力の育成	・目的意識を持った学校生活や行事への取り組み	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜学校行事＞</li> <li>・文化祭や体育大会など、クラスでの目標を掲げ、一致団結して取り組む様子が見られた。</li> <li>・生徒主体の学校行事運営ができています。</li> <li>・LHRの充実を。</li> <li>＜探究活動＞</li> <li>・自身の能力や身につけた力を客観的に捉えられるような活動を行い、進路実現に向けて取り組んだ。</li> <li>・探究活動ではそれぞれの班でテーマ設定やイベントの企画・運営、ポスターの作成に取り組み、能動的に活動に励むことができるよう学校全体でサポートできた。</li> <li>・「ゆめいく」発表会をさらに大規模なものに。</li> </ul>
	・課題解決型の学び、探究活動の推進	4.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部と連携し探究活動に取り組んでいる。2年次では実践活動を通して、様々な力をつけることができている。</li> <li>・ゆめいくを中心に生徒発信でいろんな意見や考えを出し合っている様子が見られる。今後も継続やよりよくなっていけばよいと思う。</li> <li>・探究活動時に自身の得意・不得意や身につけている能力について把握できるような活動を行い、進路実現に向けて取り組んだ。</li> <li>・3年生は生徒が自らの進路に向けて研究し、方向性を定め、それに向かって学習を計画的に進めようとする姿勢が多く見られた。</li> <li>・学校生活のさまざまな場面で意欲的に取り組む様子が見られた。</li> <li>・総合的な探究の時間では、全員が複数回発表したり、学校外で発表する機会をもったりすることにより、生徒自身が探究活動に高いレベルが求められていることを意識していると思われる。</li> </ul>
	・部活動の活性化	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆめいく探究活動では、1年を通してプランニングされており、生徒の力になっていると思う。</li> <li>・2年生を中心に活発な活動ができていた。生野高校の教育の中心であることは間違いないので、体制をしっかりとつくるべき。</li> <li>＜部活動＞</li> <li>・部活動では生徒主体で練習日程や練習メニューを決めさせ生徒の希望に沿った部活運営に取り組んだ。</li> <li>・部員が少数であるため、活動の場が制限されてしまうことが残念。生徒の活躍の場を増やしたい。目標やテーマを持ち取り組んでいる生徒が少ないように感じるため、意識性を持たせた活動にしていけたらよいと考える。</li> <li>・部活動ではできる限り生徒の意見を聞き、練習試合を予定し体育館は可能な時に新体育館で部活動ができるようにしてよい環境で取り組めるようにした。</li> <li>・部活動については、参加生徒が少なく盛り上がり欠けている。全入制度などの処置が必要。また、部活動数、部活動の種類をそろそろ変革していく必要があるように感じる。</li> </ul>

③人づくりの基盤としての 道徳性の育成	・ 人権HRを通した人権意識の高揚	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナも落ち着いたので、人権映画観賞会の実施ができるのではないかな。</li> <li>・(個人的には)授業教材で、人権問題を扱う機会があり自分自身の勉強にもなった。</li> <li>・高齢者体験など新しい取り組みが良かったと思う。</li> <li>・人権意識を知識としてだけでなく実感させるにはどうしたらよいか難しい。</li> <li>・LGBTQの研修などが教員に対してあったが、生徒に対する人権研修は学校全体の取組としては少ないと思う。</li> <li>・ゆめいくなどを中心に外部の方と関わる機会もあり、接し方や関わり方については養われる機会が多い。しかし、自分のこと中心で考え、まわりのことも考えて行動できる生徒も見られる。</li> <li>・学校全体でなにかシンボリックな活動があってもよいかと思う。例えば、月に一度「人権を考える日」などを設定するなど。</li> <li>・人権HRだけでなく、通常授業においても人権意識の高揚を図る場面が見られた。</li> <li>・情報リテラシーに関連するHRや、高齢者体験・手話体験など、身近な教材で他者のことを考え思いやる機会がとれている。生徒の感想では、「人に対する思いやりをもちたい」という意見や他人の苦労を慮るような表現が多数あり、効果があったように思われる。ただし、より身近なクラスメイトへの思いやりに欠ける行動をとる生徒もあり、人として責任のある行動をとれるように日ごろからの声掛けも欠かせない。</li> </ul>
④主体的に学ぶ態度や学 習習慣の育成	・ 家庭学習習慣及び自ら学ぶ姿勢の確立	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス分けを行い生徒に適した内容の学習課題を提供できるように工夫した。(長期休みや朝の学習時間を含む)</li> <li>・生徒自身の興味のある進路について調べさせ、目標を決めることで勉強への意欲向上を目指した。</li> <li>・自らの進路希望に合わせて、必要な課題に取り組むことができた。</li> <li>・自身で課題を設定し、積極的に課題をもらったり、採点してもらったりなど、意欲的な取り組みが見られた。</li> <li>・週末課題や小テストなど、各教科で生徒の実情に合った内容で実施し、家庭学習にこつこつ取り組めるよう工夫している。</li> <li>・生徒がキャリアイメージを作り、与えられる課題ではなく、自らの問題として学習に取り組む流れを形成するためには、キャリア教育部の役割はさらに大きくなると感じている。</li> <li>・スタサブを活用するような仕掛けがさらに持てればよいと思う。</li> <li>・主体的に学習に取り組む姿勢は多くみられなかった。授業の工夫などし、興味関心を持たせることも重要であると考えている。</li> <li>・家庭学習時間が少ない生徒が多く、なおかつ現状の学習時間が十分と考える生徒が多い現状がある。将来の進路と関連付けて考えさせるなどして、学習に対する意識の醸成に取り組む必要があると考える。適切な量の課題を出し続けることが有効に感じる。さらにスタディサブリの活用推進方法など教務部と学年がもっと協議し生徒が楽しく取り組み</li> </ul>
⑤進路希望の実現	・ 進路実現のためのカリキュラム設定	3.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路実現に向け、必要な科目を精査し、選択することができた。また、求められた際には自分の経験も含めてアドバイスを行った。</li> <li>・進路に向けた事前準備を念入りに行い、スムーズなキャリア教育が実践できた。</li> <li>・入試に関する情報や進路スケジュールを早めに伝えて、自己の進路を深く考える機会をつくっている。</li> <li>・類型選択の際には保護者との面談を行い、場合によってはさらに個別に面談を行うなど、生徒本人と保護者の意向を汲み取り、納得のいく選択ができるように努められていると思う。</li> </ul>
	・ 進路指導の充実及び家庭への適切な進路情報の提供	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三者面談以外に更なる懇談を必要とする家庭には、別途面談を設定し、担任以外の教員からも話が聞けるようにした。</li> <li>・面接の練習を行うことができる時間にできる限り多く組み、何人かの先生方にしていただくことで多くの経験を積むようにし、進路実現のために取り組んだ。</li> <li>・模試対策として補充学習を行い、目標の設定や振り返りの機会を持ち進路実現に対する意識づけを行っている。</li> <li>・進路実現に向け、模擬試験の過去問を用いて対策を行った。</li> <li>・高校卒業後の進路(進学・就職等)に関する取り組みはできていていると感じる。進路をキャリアという観点で見ると、将来的にどんなコミュニティに所属したいか等を考える機会が、地域との連携を謳っているからこそより多くても良いのではと感じている。</li> <li>・分野別ガイダンスや学校見学・キャリアトークカフェなどを実施し、生徒が早期から次の進路に向けた意識をもてるような機会がとられている。</li> <li>・卒業生から講演やキャリアガイダンスなど学校全体で進路指導ができていているように感じる。外部での進路相談会のチラシなども各HRで生徒に周知することができている。</li> <li>・キャリア指導部を中心に指導がよく行われていたと思う。多くの生徒が希望している進路に進んだり、実現に向け学習に取り組む姿が多くみられた。</li> <li>・昨年度、実施できていなかった会議、資料提供など本年度は確実に実施できた。3学年団の準備が遅く、慌てた対応になることもあったが、キャリア部長に丁寧に対応していただき、大変助かった。</li> <li>・第3学年団とキャリア教育部の連携がよりしっかりできていた。学年全体の進路指導のビジョンと一人一人の進路設計を見据えた指導、それらに対する準備が重要であることが再認識された。</li> <li>・学年として生徒の進路目標を見据えた計画的な指導が必要。</li> </ul>
	・ キャリア教育の推進	4.2	
⑥教職員の資質の向上	・ 授業の工夫改善及びわかりやすい授業の確立	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の安全面を十分に配慮し、指示の出し方に注意を払ったり、動作を教える際に個別に対応した。</li> <li>・練習時間の待ち時間ができる限りでないように展開の仕方に工夫をしたり、ペア学習を行う際には普段から一緒にいる生徒同士ではなく様々な生徒と関係を持つことができるように、毎授業ペアを一緒にしないことを心がけた。</li> <li>・プリントの内容や板書の仕方など、生徒の理解度に応じて変更するよう努めた。</li> <li>・ICT機器も活用し、プリントの配布を紙媒体とデータの両方で行い、生徒本人が使用するものを選ぶように配慮した。</li> <li>・生徒の習熟度を把握し、わかりやすい授業を心掛けている。</li> <li>・多くの授業を見学して、生涯学習につながるような「学ぶ楽しさ」を多くの授業を通して生徒は得ているだろうなと感じている。</li> <li>・ICTを活用した授業を意識したが思うように展開できない部分もあったので、工夫や研修が必要であると感じた。</li> <li>・プリントの配布やICTの活用、教科書通りでは難しい部分を生徒の習熟度に合わせて自身でプリントを作るよう工夫した。</li> <li>・職員室での会話から、教員間での授業方法の検討がよくできている学校だと思う。生徒の学力幅が大きい生野高校では先生方の授業の工夫がかなり必要である。そのことが教員の授業力向上につながっている。平素から授業の手法や教材について職員同士で議論することができていた。</li> <li>・ICT活用・BYOD活用等が活発に行われており、年次研修を受けている教員の割合も多いため、授業改善への意識は全体的に高いと思われる。</li> </ul>
⑦開かれた学校づくり	・ 家庭への連絡及び情報の積極的提供	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;家庭&gt;</li> <li>・家庭連絡は密に行った。欠席者にはその都度連絡を行うなど、生徒のその日の様子を伺うようにしていた。</li> <li>・担任の先生方のごまめな家庭連絡は、保護者の安心と信頼につながっていると思う。</li> <li>・生野高校通信やはなまる連絡帳での情報提供ができています。</li> <li>・各学年とも密に家庭と連絡しているが、さらに充実するためにあらゆるプラットフォームで家庭のニーズに合わせた情報提供を考える余地がある</li> <li>・学校HPの刷新</li> </ul>
	・ 地域との連携を図った行事の実施	4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;地域&gt;</li> <li>・地域の行事にも積極的に参加し、交流を図っている。</li> <li>・ふれあい交流事業は学校をあげた大きなイベントであると思うので、良い方向に発展してほしい。地域の方に喜んでもらい、生徒にとっても励みになっている。</li> <li>・探究活動に伴うフィールドワークや探究活動の発表にアドバイスを頂くなど、地域の企業と連携して探究活動が行われている。また、地域の企業の方に講演をしていただいたり、生野駅周辺活性化事業に関連したイベントを地域の方と協働して実施する等、非常に活発に地域と連携を図った行事が実施されていると思う。</li> <li>・地域の行事に参加し、存在をアピールすることができていた。</li> <li>・地域とのつながりを大切にしながらも、授業を中心にした学校生活の充実を根底に据えるためにも、参加行事の精選、取捨選択を。</li> </ul>

⑧安全安心な学校生活	・ 校内の環境整備の適切な実施	3.7	<p>&lt;環境整備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下の湿気で滑りやすいことや、旧体育館の雨漏り等、改善するべきところがある。</li> <li>・ICT機器などの整備は十分にできていると考える。</li> <li>・LED照明の導入やいじめアンケートの実施ができています。</li> <li>・防災という観点では、教室の床の木がえぐれていたり、廊下の壁がはがれていたり、少し心配な場所もある。</li> <li>・どの季節でも教室の環境整備に配慮している。</li> <li>・校内危険個所の点検、修理等全職員で一斉に実施しては。</li> <li>・校内美化の意識があまりない。</li> <li>・トイレの改修、鍵付きロッカー、体育館のイスなど、本年度非常に環境整備が進んだと思う。</li> </ul>
	・ 防災や生徒の安全への配慮	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築年数が増し、様々なものが老朽化している。</li> <li>・環境整備では清掃の行き届いていないところや室内の換気など不十分などもあるので、清掃、換気の実施をよく行っていきたい。</li> <li>・照明や掃除用具等、設備の不調は可能な限り素早く職員間で情報共有し、対処することができていた。</li> <li>・生徒・教員数に対して教室が多く、掃除が行き届かないことが多い。また、BYODを推進しながら、Wi-Fiの通信できる容量が十分でないなど、目的と環境が一致していない部分もある。</li> </ul> <p>&lt;防災など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を実施した。</li> <li>・災害避難訓練や不審者対応訓練を定期的実施し、危機管理体制を強化する。</li> <li>・年始の地震もあり、生徒は防災に対して意識が高まっていると思う。生野町の防災に関して探究発表するのも良い取り組みになる。</li> </ul> <p>&lt;いじめ等予防など&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートの実施や日々の声掛けで生徒の状況を把握していると考え。</li> <li>・中学校との情報共有をより積極的に行う必要があると感じている。また、預かった生徒についての高校生活の報告もある程度はしなければならないのではないか。</li> <li>・保護者の「権利者意識」「消費者意識」の高まり、プライバシーの問題を過剰に意識するあまり、家庭状況の把握が難しくなってきたのはいるが、時にはおせっかいと思えるくらいのかかわり方も必要であろう。</li> <li>・こまめに生徒を見ているが、多様な生徒がいるので心身の状況把握は難しい。</li> <li>・いじめ事案も確認されているので、人権教育やいじめは決して許されるものではないということを生徒に伝えていかなければいけない。</li> <li>・いじめ対応のシステムを確立することが大切と思う。先日の事例をもとに次なる準備ができるとよいと思う。</li> <li>・生徒の心身の状況把握については、学年と専門部の連携不足な部分もあり、反省点が多かった。学年が生徒の状況を把握し、専門部と速やかに情報を共有するよう気を付けたい。(部会や委員会の定例開催)</li> </ul>
	・ 生徒の心身の状況把握及びいじめ等の予防への対処	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の情報共有や連携がとれており、働き甲斐のある職場であると思う。</li> <li>・職員室の環境整備に努めている。</li> <li>・家庭状況に配慮し、看護休暇をとるなど、ワークライフバランスがとりやすい雰囲気になっていると思われる。</li> <li>・行事が重なる時期は休みもないため、大変である。</li> <li>・遠方通勤の先生が多く、大変である。</li> <li>・仕事内容の偏りがあり、分担が十分にできていないところもある。休みがとりにくい先生もおられると思うので、協力、分担はより必要であると思う。</li> <li>・教員の本来やりたいことと、生野高校が必要としていることに違いがあるが、生野高校が必要としていることに教員がやりがいを感じるようになれば最高の職場になると思う。</li> <li>・ワークライフ・バランスについては現状に満足せず、より家庭や職員自身を大切にしようとする意識が必要である。</li> </ul>
⑨働きがいのある学校づくり	・ ワーク・ライフ・バランスや働きがいのある職場づくり	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の情報共有や連携がとれており、働き甲斐のある職場であると思う。</li> <li>・職員室の環境整備に努めている。</li> <li>・家庭状況に配慮し、看護休暇をとるなど、ワークライフバランスがとりやすい雰囲気になっていると思われる。</li> <li>・行事が重なる時期は休みもないため、大変である。</li> <li>・遠方通勤の先生が多く、大変である。</li> <li>・仕事内容の偏りがあり、分担が十分にできていないところもある。休みがとりにくい先生もおられると思うので、協力、分担はより必要であると思う。</li> <li>・教員の本来やりたいことと、生野高校が必要としていることに違いがあるが、生野高校が必要としていることに教員がやりがいを感じるようになれば最高の職場になると思う。</li> <li>・ワークライフ・バランスについては現状に満足せず、より家庭や職員自身を大切にしようとする意識が必要である。</li> </ul>